

7 地理B

指導と評価の年間計画例 第2学年用4単位

目標	現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。
【学習指導要領】	
到達目標に向けての具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・系統地理的に考察しその視点や方法を身に付ける学習を実現するため、自然環境や産業などの諸側面からのみ世界の地域差を理解させることや地理的な用語の暗記を強いるこれまでの学習を改善し、分布図・地域区分図・類型地域の分布図の作成・利用、それらを使っての事象や分布の空間的な規則性や傾向性の説明、及び事象の成立の要因の考察などによって生徒が主体的に地理的な見方・考え方を培うことができるように取り組ませる。 ・地域性を地誌的に捉える学習を実現するため、地域の変容を支える要因を導き出し常に変化する地域を動的に見る学習と地域の特色を静態的に見る学習の二つを巧みに取り入れた構成とする。 ・生徒が興味・関心をもって主体的に学習に取り組めるよう、日常生活と関連付けたり、地図・画像・統計等の利用による調査や地域調査などの作業的・体験的な学習を多く取り入れる。 ・知識や技能の定着に努めるため、原則として単元ごとに小テストを実施する。 ・第1部・第2部の現代世界の諸課題の地理的考察においては、それまでの学習成果を活用して、生徒の地理的な見方・考え方が実際に活用されるよう、主題的な学習を進める。 ・毎日の授業において、生徒に思考を促すような「課題」を設定する授業展開に努め、思考力・表現力・地理的な技能を高め、他の場面やより高次のレベルでの転移を可能とする学習を実現する。 ・関心や意欲を高めることができるよう、視聴覚教材・インターネット・現物教材などを幅広く活用するとともに、日常的に地域を見る目を育てることができるよう、地理的な見方・考え方がいかに日常生活に役に立つかや地理的なアプローチがいかに有効であるかという意識を育てる。
【評価規準を念頭に置いた指導上の留意点】	

月	単元名	使用教科書項目(社地理B)	時	主な学習活動(指導内容)と評価のポイント	評価方法
4月	第1部 自然と生活(現代世界の系統地理的考察)	地理の授業についての説明 地理常識度チェックの実施	1	・地理学習の意味とガイダンス(年間計画・評価等説明) ・生徒の基礎的な知識や興味・関心を確認する調査を実施	アンケート実施
5月		第1章自然環境と生活 1 生活の舞台としての地形 2 世界の地形環境 3 気候と生活 4 世界の気候 5 日本の自然の特徴と人々の生活	12 15	・カシミール3Dソフトを用いて、地形の特色を3D画像を用いて理解する。 ・地形や気候等の地域的な差や類似性を、分布やまとまりなどを通して理解し、人間生活との関係について考察する。 ・地図や写真を活用し、理解したことを地図や写真を使って指摘・表現できるようにする。(岐阜県教育用コンテンツ利用) ・ケッペンの気候区分にしたがって世界の気候を分類し、その特色と分布を理解する。	プリント確認 行動観察 質問紙 小テスト 小テスト
		前期中間考査	1	・2ヶ月の間の学習の状況について自己評価する。	自己評価
		テスト返却 自己評価・授業評価	1	・授業評価を実施する。	授業評価
		第2章資源と産業 1 産業の発達と変化 2 農産物の生産と流通 3 資源の生産と消費 4 工業製品の生産と流通	14 10	・世界の農業について、自然や社会条件の違いに着目し多様性や類似性を理解する。 ・工業の立地条件とその要因の変化による変遷について、地図や資料を分析する作業を通して理解する。 ・世界の工業地域のいくつかを比較し、課題を設定してその類似性等を比較考察する。	プリント確認 行動観察 質問紙 小テスト
		課題追究学習説明	2	・各自の居住する地域を対象に、各自で「地理的な見方・考え方に基づく地域の調査と研究及び地図への表」を基本にテーマを設定して、夏休みに研究を行う。	
6月		第3章生活と文化 1 生活・文化の地域の変容 2 村落と都市 3 衣食住 4 消費と余暇活動	9	・世界の大都市の共通点や変化を分布図や写真などから読み取る。 ・日本の村落や都市の形態と特色について、地域の歴史との関係から考察する。 ・衣食住と自然環境の関連について考察する。	プリント確認 質問紙 行動観察 小テスト レポート
		前期期末考査	1		自己評価
7月		テスト返却 自己評価・授業評価	1	・授業評価を実施する。	授業評価
10月		第2部世界の諸地域(現代世界の)	課題追究学習の発表 第1章市町村規模の地域の調査 第2章地域を見る方法 第3章国家規模の地域調査	15 15	・夏休み中の地域に関する課題学習の発表を行う。 ・身近な地域を題材に地形図の見方や野外観察の方法や視点などの技能を身につける。 ・地域調査を通して、地域の特色・課題を考察し、発表する。
	11月	第4章州・大陸規模の地域調査	15	・韓国、アメリカ、オーストラリアを対象に、資料や分布図等からそれぞれの特徴を自然環境・歴史環境の中から理解し、その課題について考察する。 ・E Uと西アジアを対象に地域の特性と課題を考察する。 ・海外旅行プランの作成を通じ、世界に関して地図や資料等を利用して、地理的な視点で考える技能を身につける。	質問紙 行動観察 小テスト レポート
		後期中間考査	1	・2ヶ月の間の学習の状況について自己評価する。	自己評価
	12月	テスト返却 自己評価・授業評価	1	・授業評価を実施する。	授業評価
1月	第3部グローバル化する現代世界	第1章グローバルに結びつく現代世界 第2章近隣諸国の研究 第3章人口・食料問題 第4章民族・領土問題	8 12	・中国を取り上げ、貿易・産業・労働力等の諸観点から、その特色を考察し、日本との交流の将来を考察する。 ・人口と食料の問題を対象に、分布図等の作成や読み取りの技能を身につけ、人口の偏在・食料の供給と農業の課題について考察する。	プリント確認 質問紙 行動観察
	2・3月	第4部 地球的な課題(現代世界の諸課題の地理的考察)	16	・世界の民族のさまざまな生活形態と自らの生活を比較する学習を通して、文化の多様性について、考察する。 ・最近の民族紛争に関する分布図を作成し、経済的利益・宗教・歴史など紛争の要因について考察する。	小テスト 小テスト
		地理Bの授業を終えて	1	・1年間の反省と授業評価を実施する。	年間の反省
		後期期末考査	1		
合計時間数			140		

地理 B

評価規準を含んだ指導と評価の計画（単元ごとの指導と評価の計画）

1 科目の目標 「学習指導要領」の科目の目標と同一

現代世界の地理的事象を系統地理的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 科目全体の評価の観点の趣旨

「評価規準の作成、評価方法の工夫改善のための参考資料（高等学校）」に記載されたもの

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
現代世界の地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	現代世界の地理的事象から課題を見だし、それらを系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえて公正に判断する。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択、活用することを通して現代世界の地理的事象を追究する技能を身に付けるとともに、追究した過程や結果を適切に表現する。	現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。

3 単元 「第 部現代世界の地誌的考察 (1)市町村規模の地域調査」の目標と評価規準

(ア) 小単元「(1)市町村規模の地域調査」の目標

直接的に調査できる地域の特色を多面的・多角的に考察して、日常の生活圏、行動圏の地域性を地誌的にとらえさせるとともに、日本又は世界の中から同規模の地域を取り上げて地誌的に考察し、それらを比較し関連づけることを通して市町村規模の地域を地誌的にとらえる視点や方法を身に付けさせる。

(イ) 小単元「(1)市町村規模の地域調査」の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	資料活用の技能・表現	知識・理解
直接的に調査できる地域及び日本又は世界の中から選んだ同規模の地域に関する関心と課題意識を高め、それらの地域性を地誌的に追究する学習に意欲的に取り組み、市町村規模の地域を地誌的にとらえる視点や方法を身に付けようとしている。	直接的に調査できる地域及び日本又は世界の中から選んだ同規模の地域及び地理的事象から課題を設定し、それらを地誌的に追究するとともに、直接的に調査できる地域及び日本又は世界の中から選んだ同規模の地域を追究した過程や結果を比較し関連付けることを通して、市町村規模の地域を地誌的にとらえる視点や方法を考察している。	直接的に調査できる地域及び日本又は世界の中から選んだ同規模の地域に関する資料を収集し、学習に役立つ情報を適切に選択、活用することを通してそれらを地誌的に追究する技能を身に付けるとともに、そうした追究、考察の過程や結果を比較し関連付けてまとめたり、発表したりしている。	直接的に調査できる地域及び日本又は世界の中から選んだ同規模の地域の特色を地誌的に理解するとともに、それらを比較し関連付けることを通して市町村規模の地域の地域性を地誌的にとらえる視点や方法を理解し、それらの知識を身に付けている。

地理 B

(ウ) 小単元「(1)市町村規模の地域調査」の各時間ごとの内容

(特に記録を残す評価)

1 夏休み中の課題研究の発表			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
1 時 間 目	<p>地誌的な考察の方法について</p> <p>夏休み中の課題研究のテーマの確認</p> <p>グループ内での個人別発表</p> <p>優秀な作品を全体で発表</p>	<p>地誌的な考察の視点について理解する。 【知】</p> <p>各自のテーマ一覧表を配布し、「どのテーマが興味深いか」の視点からテーマを検証させ、関心を高める。 【関】</p> <p>各グループで個人別に発表させ、各自が、発表内容を評価。 【思】</p> <p>・地理的な見方・考え方は示されているか。</p> <p>グループ内で高い評価を受けたものをクラス全体で発表 【技】</p>	<p>発問、意見観察</p> <p>発問、行動観察、意見発表</p> <p>個人別に評価表を提出</p> <p>自ら作成した資料を用いて内容をうまく発表できるか。</p>
2 学校周辺地域の調査のポイント			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
2 時 間 目	<p>第3時間目を行う学校周辺の地域調査に関する視点を解説</p> <p>・ルートの確認</p> <p>・各調査場所の調査内容のポイントの確認</p>	<p>内容のポイントの確認 【思】</p> <p>・標高等、地図の見方の確認</p> <p>・台地と低地の土地利用、</p> <p>・ため池の役割と今後</p> <p>・文教施設</p> <p>・採土地の考察</p> <p>作業プリントでの作業 【知】</p> <p>調査の方法を理解している。</p>	<p>発問、行動観察、意見発表</p> <p>机間指導により確認</p>
3 学校周辺地域の調査			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
3 ・ 4 時 間 目	<p>巡検に対する説明</p> <p>新境川と境町付近の大地の観察</p> <p>各務山の西側地域の位置付け</p> <p>東島池(ため池の)意義</p> <p>各務山採土場での調査</p>	<p>周辺の地域に興味・関心を示し、地理的な事象を見つけることができる。 【関】</p> <p>新境川の低地と坂井町付近の大地の相違に気付き、土地利用等の違いとその理由を考察することができる。 【思】</p> <p>各務山西側地域が各務原市の中心的那加に対する飛び地的な文教・官庁地区となっているを理解する。 【知】</p> <p>ため池である東島池についてその意味と灌漑規模などを考察する。 【思】</p> <p>各務山の採土場に注目し、土の利用等について聞き取り調査ができる。 【技】</p>	<p>行動観察</p> <p>調査結果プリントの提出 (本時の段階で一度プリントを提出させる。)</p>
5 調査結果のまとめ、インターネットを利用した他都市の調査			
	主な学習内容	主な学習活動・評価の観点	評価の方法・指導
5 時 間 目	<p>地域調査の結果のまとめ</p> <p>調査内容の確認</p> <p>自らの課題研究レポートとの比較と改良</p> <p>インターネットを利用した地域調査</p>	<p>地域調査の内容を整理し、それぞれの調査対象の意味が理解され、的確に表現されている。 【技】【思】</p> <p>結果を課題レポートと比較し、自分の居住地域について、今後どのような「地理的考察」ができるか表現する。 【関】</p> <p>国内の同程度の規模の都市として、北海道釧路市についてインターネットを利用して調査し、釧路の特色を地図や表等で表現する。 【技】</p>	<p>発問、行動観察、意見発表</p> <p>調査結果プリントの提出</p> <p>発問、行動観察、意見発表</p> <p>レポート「釧路について」を提出</p>

日本史 B

学習指導案例

教科(科目)	地理歴史科 地理 B	単元名	市町村規模の地域の調査
本時主題	学校の周辺地域の調査 (3・4時間目 / 5時)		
本時の目標	1 学校周辺の地域に興味・関心を示し、地理的な事象を見つけることができる。【関】 2 学校のある新境川の低地と坂井町付近の大地の相違に気づき、土地利用等の違いとその理由を考察することができる。【思】 3 各務山の採土と周辺地域の改変の状況に注目し、この地域が各務原市の中心的那加に対する飛び地的な文教・官庁地区となっているを理解する。【知】 4 農業用のため池である東島池についてその意味と灌漑規模などを考察する。【思】 5 各務山の採土場に注目し、土の利用等について聞き取り調査ができる。【技】		
指導の内容・ねらい	学 習 活 動	指導上の留意点・観点別評価	
<ul style="list-style-type: none"> 地域調査の方法・所持品・交通指導について説明。 本校周辺の観察 坂井付近の台地の考察 各務山の採土による改変、周辺地域の施設の観察 東島池(ため池)の役割と現状 チャート山地の採土場 採土の・残土のリサイクル 良質の建設用になる 調査結果のまとめ 次回の予告 	<p>事前指導で用いた地域調査プリントで確認。</p> <p>標高、土地利用の観察、解説。プリントで標高と位置を確認する。</p> <p>Point 1 新境川付近の低地と坂井町付近の台地面の違いについて考察しよう。</p> <p>比高・土地利用(作物の種類)・土壌(黒褐色の黒ボク=保水力に富んだ腐植土)等を観察し、低地(水田)と台地(白菜等の畑)の違いを確認する。</p> <p>Point 2 各務山の採土による改変と西側地域の施設について観察しよう。いつごろ、どのように変貌していったか。現在はどのようになっているか。</p> <p>都市計画道路岐阜犬山線の確認。 関江南線は、交通量が多く、大型店舗自動車販売店などロードサイドショップが多く、ホテルや結婚式場も立地し、市の文化ホールがある。 また、市民会館・警察署・法務局など各務原市のミニ文教・官庁地区を形成している。 ・各務山の採土は1955年にはすでに始まっており、1976年には住宅地が造成され建設が始まった。また、東海中央病院・市民会館・警察署などの公共施設は、1981年の地図にはすでに全部登場している。</p> <p>Point 3 東島池とその役割について考えよう。</p> <p>本来ため池である東島池が現在は親水公園となっている状況とこの地が溜池となった地勢的理由を、周囲の台地面との比高から考察する。 ・乏水性の各務原台地にはため池が各所に見られた。この付近がどのように灌漑されてきたかを考察する。 ・この付近は、各務山南麓の前の山水路(かつての後川)から続く細長い谷底平野である。</p> <p>Point 4 採土場で聞き取り調査をしてみよう。</p> <p>「なぜこの山地で操業しているのか」「操業開始はいつ頃なのか」「跡地利用の計画はあるのか」などを聞き取り調査する。</p> <p>調査プリントの調査票の整理の仕方を解説</p>	<p>プリントへの記入状況を確認</p> <p>全員が説明を聞ける場所を設定し、測定や観察方法のポイントを分かりやすく説明する。水田と畑の違い、標高の違いに気付かせる。 <評価方法> 本時の評価は基本的には提出プリントによって行う。但し各ポイントにおいて発問、意見発表、行動観察によって、生徒の思考・理解の状況を確認しつつ移動する。</p> <p>各務山がかつてどの地域にまで及んでいたかを開発以前の地図で確認する。改変された土地が何に利用されているか観察させる。</p> <p>どういった店舗が立地しているかその業種を調査し記録する。</p> <p>周囲の台地面より低い場所であることを理解させ、池の中央の噴水、池の水の出入り口は東側にあつて後川とつながっていることなどに気付かせる。ため池を利用した親水公園という都市づくりにも注目させる。</p> <p>あらかじめ質問事項などをまとめておき、代表者に要領よく質問させる。 聞き取り調査のマナーを事前に指導しておく。 <評価方法> 聞き取りの方法、記録の方法について、行動観察・レポート提出。 地図化、図表化して整理する方法も指導し、宿題とする。</p>	

地理 B

<参考資料>

各務原市各務山周辺授業巡検コース解説

地域調査にあたって

各務原市は、市域の中心が洪積台地の各務原台地上にある。この台地は、扇状地状三角州が隆起したものである。台地の規模は、東西約10km、南北約4kmである。標高は名鉄羽場駅付近が高く約60mで、東から西へ緩やかに傾斜している。なお、羽場町付近の各務原台地東端には、木曾川泥流が台地面に押し上げるようにのっている。台地の特色として、深い谷が少なくおよそゆるやかに波打った平坦地を形成している。しかし、東部・南部は木曾川が、北部・西部は境川や長良川の浸食によって河岸段丘状になっていて、およそ上位の台地面と下位の台地面に分けられる。

市域の北部は古生代に放散虫や珪藻が海底で堆積し中生代に隆起したチャートなどからなる200～300mの山地がおおよそ西北西から東北東に向かって列状に分布している。

各務原市は人口13.7万(2003年度)である。人口は順調に増加してきたが、ここ数年の年増加数は1000人を下回っており、社会増加は年によってはマイナスになっている。核家族化や単身世帯の増加によって世帯数は増加しているが、人口増加は頭打ちになってきている。土地利用をみると、宅地が23.3%、以下、山林14.9%、畑11.7%、田8.9%、雑種地4.6%、その他36.6%である。国道21号線南には航空自衛隊岐阜基地があり、広い面積を占める。

輸送機械工業など製造業が特筆される各務原市であるが、工業従業者数や工業事業所数は減少傾向である。那加の中心商店街は停滞気味で、国道21号線などにロードサイドショップの進出が著しい。鵜沼地区には大型小売店のアビタが進出した。

農業については、総農家戸数が2406戸(農業センサス：2001年)で、台地上では畑作が中心で、境川沿いは水田が多い。「黒ボク」が分布する台地の畑作は、人参の栽培が多く、白菜・里いも・甘藷がおもなものである。人参、白菜の作付面積は横ばいであるが、里いも・甘藷は、減少してきている。

本校は、この各務原市域の中央部蘇原地区の北部に位置し、近くを主要地方道の江南関線が通っている。

巡検地域の概要とねらい

1. 巡検地域の概要

この巡検は、本校より約1.5km南進して東島池で引き返すコースである。巡検地域のポイントを本校より順を追って説明する。

本校は、新境川の流域にあって、その支流の正福寺川との合流地点にほぼ位置している。標高は38.9m(東門道路上)で、水田面はそれより50～80cmほど低い。本校の北部は、関市との境になっている西北西から東南東に連なる標高200～300mほどの山地になっている。南部には採土中の各務山がある。いずれも、チャートからなる山地である。

本校が位置する新境川沿いの低地は、「各務原の歴史」(各務原市教育委員会編)の地形分類図によると、各務原台地の「低い方段丘」(下位の台地面)に分類されている。しかし、土地条件図ではこの地形面を氾濫平野・谷底平野に分類しており、地質図では礫・砂および泥からなる谷底平野堆積物からなっているとされている。土地利用は水田がほとんどで、本校の周辺もそうである。境川流域では、条里制の遺構が見つかり、早くから開発が進んでいた。

本校より南へ100mほど行くと新境川を横切るが、対岸のおがせ街道沿いの坂井の集落はこの面より1mほど高く、前出の地形分類図によると上位の台地面となる。この付近は、集落や畑が分布しており、土地もゆるやかに起伏をうっている。秋になると、観光芋掘り農園もみられる。土壌は、「黒ボク」である。

この付近から少し南進すると、主要地方道の江南関線と合流し市街地が形成されている。各務山の改変地に、市文化ホール・市民会館や各務原警察、法務局、中央小中学校、東海中央病院などの公共機関や公共施設が集中しており、文教官庁地区となっている。また、周辺は新興住宅街が広がっている。東海中央病院付近は、各務原市の都市計画図では近隣商業地域になっており、通称16m道路の終点付近にはロードサイドショップなど商店が多い。拡幅の進む都市計画道路も部分的に開通しており、今後も都市化が進むと予想される。

この地点には、農業用のため池の東島池がある。この付近は、周囲の台地面より低くなっている。現在は、灌漑用として使用されるとともに、整備されて公園として利用され市が管理している。東島池から南は、再び各務原台地の上位面(標高約43m)であり、川崎重工岐阜北工場やムトー精工などの工場地区となる。

地理 B

巡検は、東島池まで南進して引き返す。帰路は、各務原原警察署の前を東進して新興住宅地を通り北に折れて台地面に下る。そして、台地面とそれよりやや低い氾濫原が列状に交互に分布する各務西町を通る。やがて、駒場の集落がのる新境川沿いの「黒ボク」台地面を横切る。そして、新境川の堤防を東進し水田地域にでる。

巡検の最後に、本校東500mほどのところにある採土場に立ち寄る。ここは、チャートなどからなる山地を崩して、採土している。また、他から搬入された残土をリサイクルしている。現場の方の話では、この山地の土砂は土木建設用の盛り土などに利用され、質が良く他より高い値段で取り引されているとのことである。

この巡検コースは、2単位時間では少しきついと思われるので、時間によっては、採土地の聞き取り調査は、別に1単位時間設けて実施しても良いと思う。

2. 巡検のねらい

(1) 新境川沿いの低地と坂井町付近の台地面の地形と土地利用を考察する。

本校のある新境川沿いの低地と坂井町付近の台地面の違いに気付かせたい。土地利用や土壌などの違いを観察する。坂井町付近の台地面では、白菜・大根などの根菜類や一部に芝の栽培もみられる。また、観光農園としての甘藷栽培もみられるので都合がよい。新境川の低地と坂井町の台地面との比高を簡単な方法で測定してみる。この一帯は、わずかな比高の違いで、水田と畑が列状に交錯しているので、注意深くみる。水田の灌漑用水が至るところにみられるが、そうした水路の水源について考えてみるのも興味深い。

(2) 各務山の改変と都市化について考察する。

各務山は、現在も採土されている。改変された土地は官庁や公共施設に利用され、また新興住宅地になっている。各務原市の中央部に位置し、那加に対して飛地的な文教・官庁地区としての機能をもっている地域であることに気付かせたい。また、付近にはどんな商店が多いかなども観察してみる。

拡幅が進んだ都市計画道路が部分開通している地点まで行き、各務原市の都市計画の話も織り混ぜ、町づくりについても考えさせる。

(3) 農業用ため池の東島池を観察する。

各務原台地は乏水性の土地で、ため池が各所にみられた。この付近が、どのように灌漑されてきたかを考察する。ここは、土地条件図によると、各務山南麓の前の山水路(かつて後川)から続く細長い谷底平野である。東島池の下流は、後川となって新境川に注いでいる。

また、こうしたため池を市民の憩いの場として活用する町づくりにも注目させる。

(4) チャートの山地の採土場について考察する。

各務山をはじめ、本校付近の山地は、採土場となっているところが多い。本校東約500mには、A社の採土場があり、いつもトラックが出入りしている。なぜ、この山地を崩して採土が行なわれているのかを考えさせる。簡易事務所があるので、土質の特徴やその土砂の利用先、さらに跡地の計画などについて、地理の調査法のひとつである聞き取り調査を試みる。また、自然との共生を考えてみてもよい。